

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	日本文化論		
担当者(Instructors)	服部 このみ	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

流行語や広告には、当時の人々に広く受け入れられた世相・風俗が強く反映されている。とくに昭和時代には、その時代の世相やライフスタイルなどが体现された「〇〇族」という流行語が数多く作られた。本講義では、ベストセラー作品や雑誌から誕生し社会現象となった「〇〇族」や、話題となった広告の分析を通して、昭和の価値観の移り変わりを読み解いていく。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	プリント資料を中心とした講義。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	授業内容と方法についてのガイダンスを行う。	<input type="checkbox"/>
第2回	戦後の「族」と「系」、「戦後ゼロ年」について	授業で扱う流行語や敗戦直後の日本について学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第3回	太宰治『斜陽』と斜陽族	1940年代後半の出来事と社会現象について講義する。	<input type="checkbox"/>
第4回	源氏鶏太『三等重役』と恐妻族	1950年代前半の出来事と社会現象について講義する。	<input type="checkbox"/>
第5回	石原慎太郎『太陽の季節』と太陽族	1950年代後半の出来事と社会現象について講義する。	<input type="checkbox"/>
第6回	「やっぱり森永ネ」 — 敗戦～1950年代の広告	敗戦から1950年代までに話題となった広告について講義する。	<input type="checkbox"/>
第7回	『平凡パンチ』とみゆき族	1960年代の出来事と社会現象について講義する。	<input type="checkbox"/>
第8回	「白いクラウンは幸せなハイライフの象徴です」 — 1960年代の広告	1960年代に話題となった広告について講義する。	<input type="checkbox"/>
第9回	『an-an』『non-no』とアンノン族	1970年代前半の出来事と社会現象について講義する。	<input type="checkbox"/>
第10回	吉行淳之介『夕暮まで』と夕暮れ族	1970年代後半の出来事と社会現象について講義する。	<input type="checkbox"/>
第11回	「女性よ、テレビを消しなさい」 — 1970年代の広告	1970年代に話題となった広告について講義する。	<input type="checkbox"/>
第12回	田中康夫『なんとなく、クリスタル』とクリスタル族	1980年代前半の出来事と社会現象について講義する。	<input type="checkbox"/>
第13回	『Hanako』とHanako族	1980年代後半の出来事と社会現象について講義する。	<input type="checkbox"/>
第14回	「おいしい生活。」 — 1980年代の広告	1980年代に話題となった広告について講義する。	<input type="checkbox"/>
第15回	族の衰退一族から系へ	1990年代以降の「大衆」観の移り変わりについて講義する。	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

授業前に、各回の内容に関連する時代や作品・雑誌、ことばについてインターネットなどで調べておく(2時間程度) 授業後は配布した資料やノートの内容などを整理し、テストに備えておく(2時間程度)

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

期末レポートを実施する。また、随時授業へのコメントを提出してもらおう。コメントの内容は授業において紹介し、全体で共有する。

■授業の到達目標と評価基準 (Course goals)		
区分 (Division)	DP区分 (DP division)	内容 (DP contents)
主体性	◆ 2019国際ビジネスDP3	流行や文化について単なる印象批評ではなく、自らの深い洞察をもって語り、分析することができるようになる。

■成績評価 (Evaluation method)				
筆記試験 (Written exam)	実技試験 (Practical exam)	レポート試験 (Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他 (Other)
			15%	85%
授業内試験等(具体的内容) (Specific contents) その他：各回の内容に関するコメント・課題の提出 (85%)				

■テキスト (Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書 (references books)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		